

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一緒にとなって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考え方から、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年 国語 15人 算数 15人 理科 15人

第5学年 国語 15人 算数 15人 理科 15人

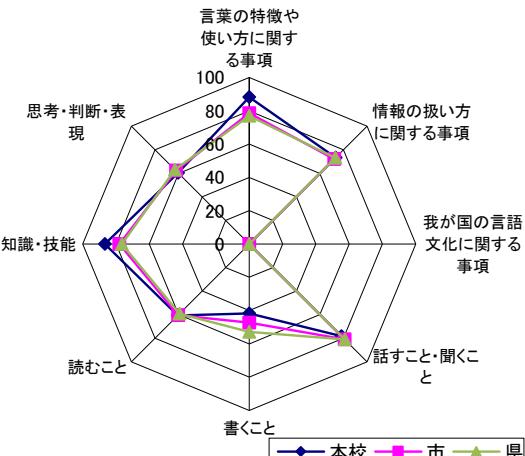
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	88.2	78.6	76.9
	情報の扱い方に関する事項	73.3	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	78.3	81.0	81.1
	書くこと	41.7	47.2	52.8
	読むこと	60.8	60.5	59.3
観点	知識・技能	86.7	78.0	76.5
	思考・判断・表現	60.4	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

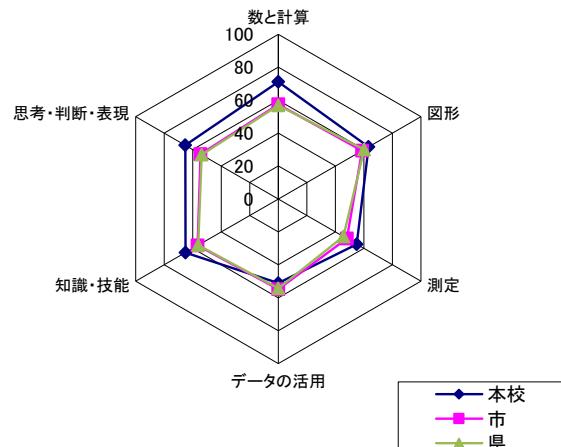
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より高い。 ○漢字の読みは9割が正答しており、市の平均を上回っている。書きも1問を除き正答率が高い。日々の音読や漢字学習の積み重ねが、語彙力の定着につながっていると考えられる。 ○主語と述語の組み合わせ、指示語の問題は高い正答率を示しており、市の平均を上回っている。文づくりや会話文を用いた指導が、文の構造や語のつながりを意識する力の育成に結びついていると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きについては、これまで同様、音読教材や毎授業の音読活動を継続的に活用し、日常的な語彙の定着を図っていく。単なる読みの練習にとどまらず、文脈の中での意味を捉える読み取り活動や、同音異義語・部首・読み方に着目したクイズ・問題づくりなどを通して、言葉への関心を高めていく。 ・文づくりや会話文を用いた活動を継続し、主語と述語の関係や指示語の働きに注目させ、語と語のつながりを意識する力をさらに高めていく。普段の会話や記述でも、主語を明確にする意識づけを行い、主語のないあいまいな文や発言を避ける力を育てる。
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○国語辞典に載っている順番を選ぶ問題で、市の平均をやや上回る正答率となっている。辞書引き活動や調べ学習を通して、辞典の使い方を意識する場面が多かったことが、語彙や情報の扱い方の理解につながっていると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典を使う活動を日常的に取り入れ、意味調べだけでなく、類義語や用例との関係を考える学習へと発展させる。 ・調べた語を使った文づくりや表現活動と関連づけることで、辞典で得た情報を実際の言語活動に生かす力を育していく。
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。 ○話し手の意図や司会者の工夫を捉える問題、発言を基に適切な発言を選ぶ問題で、市の平均をやや上回っている。話し合い活動の積み重ねにより、要点を聞き取り整理する力が育ちつつあると考えられる。 ●自分の考えを理由とともに伝える記述問題の正答率が低い。根拠を明確にしながら、筋道立てて考えを述べる力が十分に育っていないと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで取り組んできた話し合い活動を継続するとともに、発言の意図や立場を明確にして伝える練習を取り入れ、伝えたいことを的確に話す力を高めていく。その際にには、相手の発言の意図を理解しようとする姿勢を大切にし、話すために聞くという意識を育て、より深く考えを練り合う話し合いへとつなげていく。 ・理由や根拠を明確にしながら、自分の考えを筋道立てて述べる力を育てるために、論理的な話し方の基礎を養う活動を取り入れていく。例えば、理由を明確にするワークシートの活用や、順序立てて説明するミニスピーチ、図やメモを使って伝える説明活動などを通して、論点を整理しながら話す力を高めていく。
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。 ●記述式の設問において、文章量、段落構成、考査の明確さ、理由の提示の4観点すべてで正答率が低い。考え方を筋道立てて書く力や、構成を意識して表現する力に課題があると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・段落構成などの明確な構成を意識した指導を、国語科の作文単元や日々の振り返り活動などで行い、段落の役割や流れを理解しながら文章を組み立てる力を育っていく。 ・事実と意見を区別する練習や、自分の考えを支える理由や具体例を挙げる指導は、読書感想文や意見文の作成時、学習のまとめや振り返りカードなどを書く場面で継続的に取り入れ、根拠に基づいた記述力を高めていく。
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○場面の様子を叙述に基づいて捉える問題で、市の平均を上回っている。登場人物の行動や情景描写に着目する読みを積み重ねたことで、文章の表層的な内容を的確に読み取る力が育っていると考えられる。 ●登場人物の気持ちの変化を想像する設問や、情報同士の関係を捉えて要約する設問では正答率が低い。文章全体を深く読み取り、内容を整理・再構成する力には課題があると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動や場面の描写に基づいて心情や情景を想像し、感じたことを共有する活動を通して、作品への理解を深める力を育てていく。挿絵を手がかりに読みを深めたり、自分の感じた場面を絵に表したりすることで、表現と解釈のつながりを実感できるようにする。 ・文と文のつながりや要点に注目する読みの活動を取り入れ、内容を要約したり言いかえたりする力を育て、文章全体の構造的的理解につなげていく。要約のポイントを押されたワークシートや、何度もやり直しながら推敲する活動を通して、表現の簡潔さや的確さを高めていく。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.1	57.4	56.9
	図形	63.3	58.7	60.1
	測定	55.0	48.1	45.7
	データの活用	51.1	54.9	54.3
観点	知識・技能	65.1	56.6	56.2
	思考・判断・表現	65.2	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

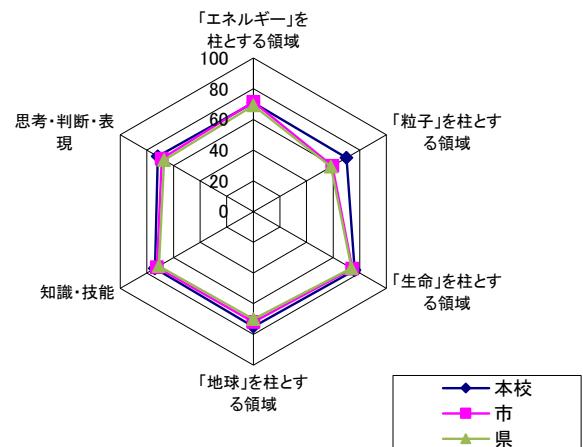
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○万の単位や小数・分数の表し方など、数の仕組みに関する問題で正答率が高い。日常の数量と結びつけた学習が定着につながっていると考えられる。</p> <p>○3けたのひき算や2けた×1けたなどの基本的な計算問題で正答率が高い。計算のきまりを活用した指導の成果が表れている。</p> <p>○かけ算や分数の意味に基づいた式づくりや説明の問題でも一定の成果が見られる。数量関係を考える力が育ってきていると考えられる。</p>	<p>・万の単位や小数・分数など、数の仕組みに関する理解をさらに深めるために、買い物や旅行の計画など実生活に関連した課題や話題を取り入れ、実感を伴って数を捉える力を育てていく。例えば、買い物の合計金額を予想させたり、移動距離を小数で表現させたりする場面を取り入れる。</p> <p>・基本的な計算技能の定着を図るとともに、「なぜこの式になるのか」を考えさせる活動や、ペアやグループで計算の過程や意味を言葉で説明し合う活動を通して、数量関係を論理的に捉える力を養っていく。あわせて、図や具体物を用いて式の意味を視覚的に捉えながら説明させていくことで、理解の定着を図っていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○球の半径や直径、正三角形や二等辺三角形の性質に関する問題で、市の平均を上回っている。図形の特徴に着目した操作や作図の学習を通して、図形の性質を理解し活用する力が育ってきていると考えられる。</p>	<p>・球や三角形などの図形の性質について、操作・作図・説明を組み合わせた活動を通して、図形を構成する要素や規則性に着目する力をさらに高めていく。図形を言葉で説明したり、仲間同士で根拠をもとに考えを伝え合ったりする活動を取り入れ、思考と言語を結びつけながら理解を深めていく。</p> <p>・図形の特徴や性質をもとに、他の図形への応用や構成に取り組む活動を取り入れ、図形を構成的・統合的に捉える見方を育てていく。加えて、複数の図形を比較・分類したり、実生活にある図形(建物・標識・道具など)との関連に気付かせたりすることで、図形の学習をより意味あるものとして広げていく。</p>
測定	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○時間・長さ・重さに関する測定の問題で、市の平均を上回っている。日常生活と結びつけた具体的な活動を通して、単位の理解や比較、説明する力が育ってきていると考えられる。</p> <p>●はかりの目盛りを読み取る問題で正答率が低い。目盛りの間隔や単位の違いを正確に読み取る力が十分に身に付いておらず、重さを数量的に把握する力に課題があると考えられる。</p>	<p>・時間・長さ・重さなどの測定については、「行事の所要時間を考える」「身の回りの物の長さや重さを測る」など、引き続き日常生活と関連づけた活動を行い、単位の意味や量の見当を伴った感覚的理を深めていく。</p> <p>・はかりの目盛りを正確に読み取る力を育成するために、「異なる目盛りのはかりを比較する」「測定値をペアで確認し合う」など、目盛りの幅や単位の違いに着目する場面を繰り返し設け、誤答の要因に焦点を当てた指導を行っていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●表の合計欄の意味や、棒グラフの適切性を判断する問題で正答率が低い。数値の意味を的確に読み取ったり、目的に応じてデータを活用したりする力に課題があると考えられる。</p>	<p>・表やグラフの読み取りでは、目盛りの幅が異なる棒グラフの比較や、合計欄の意味を読み取る活動などを取り入れ、数値の意味を的確に把握させるとともに、根拠に基づいた判断や説明の力を育てていく。</p> <p>・他教科や生活と関連づけた場面を意図的に設定し、例えば天気の記録や運動会の記録などをもとに、目的に応じたグラフの選択や比較を行う活動を通して、情報を活用する力を高めていく。</p>

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	70.9	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	70.0	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	76.2	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	75.0	72.0	70.1
観点	知識・技能	73.9	72.5	70.9
	思考・判断・表現	71.9	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○光・音・磁石に関する問題で市の平均を上回っている。実験や観察の結果に基づいて現象を捉え、法則性や因果関係を理解する力が育ってきていると考えられる。</p> <p>●風やゴムのはたらき、電気回路に関する実験結果の読み取りや、グラフによる表現、考察を問う問題で正答率が低い。実験結果と条件の関係を的確に捉え、因果関係をもとに説明・判断する力に課題があると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・光・音・磁石の現象については、引き続き実験や観察を通して法則性や因果関係に着目し、条件による変化や結果を自ら説明する力を育っていく。 ・風やゴムのはたらき、電気回路の単元では、「仮説→実験→考察」の流れを重視し、実験結果と条件の関係を丁寧に読み取ってグラフや表、言葉で説明する活動を重ねることで、論理的に考察する力を養っていく。また、表やグラフをもとに意見を出し合う話し合い活動を取り入れ、他者の視点も取り入れながら理解を深めていく。
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○重さや体積に関する問題で正答率が高く、市の平均を上回っている。はかりを使った測定や、体積と重さの関係を比較する学習を通して、ものの性質を数量的に捉え、根拠をもって考える力が育ってきていると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、はかりや実物を用いた測定活動や比較を取り入れ、重さや体積といった量を数量的に捉える学習を深めていく。 ・測定して得られた数値をもとに仮説や予測を立てたり、それを根拠に説明したりする活動を重視し、科学的に根拠をもって判断する力をさらに伸ばしていく。
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○植物や昆虫の体のつくりや成長について、共通点を捉える問題では正答率が高く、市の平均を上回っている。観察や記録を通して、生物に共通する特徴を理解する力が育ってきていると考えられる。</p> <p>●モンシロチョウとトンボの育ち方の違いを比較する問題では正答率が低い。生物ごとの成長の違いに注目し、対比して理解する力に課題があると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や昆虫の観察や記録を継続し、生物に共通する構造や成長の様子を捉える力をさらに伸ばしていく。観察記録の共有など、言語化の機会も意図的に設ける。 ・昆虫の育ち方の違いを比較して理解する力を育てるために、複数の生物を並行して観察・比較する機会を設けたり、育ち方の過程を図や表で整理したりする活動を取り入れる。
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○方位磁針や温度計の使い方、太陽と影の位置関係を考える問題で正答率が高く、市の平均を上回っている。観察や道具の操作を通して、自然の変化や現象を的確に捉える力が育ってきていると考えられる。</p> <p>●日なたと日陰に関する気付きに対して適切な記録を選ぶ問題で正答率が低い。観察結果と気付きの内容を結び付けて考える力に課題があると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象の観察や道具の操作に引き続き取り組み、太陽と影の関係や気温の変化など、現象の因果関係を意識して捉える学習を充実させていく。 ・日なたと日陰の観察を通して自分の気付きを説明したり、適切な記録を選んだりする活動を取り入れ、観察結果と考察を結び付ける力を育てていく。特に、記録と根拠の一致に着目する視点を継続的に養っていく。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

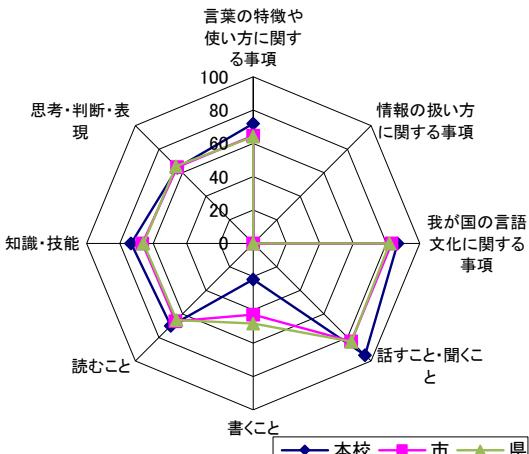
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」という設問の肯定回答は87.6%で、市の平均を上回っている。授業中に間違い直しの意義を繰り返し伝えてきたことや、家庭学習ノートなどで振り返りや再挑戦の習慣が定着していることが背景にあると考えられる。今後も、家庭と連携しながら、振り返りを大切にする学習習慣の育成に取り組んでいく。
- 「学校の宿題は、自分のためになっている」という設問の肯定回答が100%である。宿題の目的や意義を授業の中で繰り返し共有し、自分ごととして捉えられるよう働きかけてきた成果である。今後も、学びの見通しや活用場面を意識させながら、意欲的に取り組める宿題の在り方を工夫していく。
- 「ぎき問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」という設問の肯定回答は81.3%で、市の平均を上回っている。理科や総合的な学習の時間において探究的な学習の機会が多く設定してきたことが要因と考えられる。今後も、興味関心を深める学習環境を整え、児童の主体的な追究の姿勢をさらに育てていく。
- 「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」という設問の肯定回答が87.6%で、市の平均を上回っている。自力解決を尊重する授業スタイルの中で、挑戦を促し、達成感を実感できる場面を積み重ねてきたことが成果として表れている。今後も、見通しや振り返りの機会を充実させながら、自ら学ぶ力の育成を図っていく。
- 「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」という設問の肯定回答が93.8%で、市の平均を上回っている。話し合い活動を重視した授業づくりや、ペア・グループでの対話活動の積み重ねが功を奏しているといえる。今後は、意見の理由を明確に述べる力や、対話を通して考えを広げる力の育成にも努めていく。
- 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」という設問の肯定回答が100%である。互いの意見を尊重する雰囲気が学級全体に根づいており、聞く姿勢を大切にする授業実践の成果がうかがえる。今後は、聞き取った内容に対して問い合わせたりつなげたりする力の育成も視野に入れて取り組んでいく。
- 「自分の行動や発言に自信をもっている」という設問の肯定回答が81.3%で、市の平均を上回っている。日々の学級活動や係・委員会活動での役割、発表や意見交流の場が豊富にあることが、児童の自己肯定感や自己効力感を高めていると考えられる。今後も、成功体験を積み重ねる場面を意図的に設け、自信をもって表現する力を育てていく。
- 「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という設問の肯定回答が56.3%で、市の平均を下回っている。家庭学習における自主的な学びへの働きかけが十分ではなかった可能性がある。今後は、現在取り組んでいる「マイプランカード」を活用し、学習の振り返りをもとに自分に合った課題を考える学習や、主体的な学びを称賛する場を設け、自分で学ぶ意義を実感できるよう支援していく。
- 「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」という設問の肯定回答が75.1%で、市の平均を下回っている。授業の中で振り返りを書く時間はあるものの、友達と共有したり発表したりする場が少なかったことが要因と考えられる。今後は、振り返りカードの掲示やペアトークなど、アウトプットとしての振り返りの場を充実させていく。
- 「友達の前で自分の考え方や意見を発表することは得意である」という設問の肯定回答が37.6%で、市の平均を下回っている。発表への自信のなさや、失敗を恐れる気持ちが背景にあると考えられる。今後は、少人数での共有や安心して話せる雰囲気づくり、ポジティブなフィードバックを意識的に取り入れることで、発表に対する抵抗感を減らしていく。
- 「自分はクラスの人の役に立っていると思う」という設問の肯定回答が56.3%で、市の平均を下回っている。役割を果たしても、それが仲間の中で十分に認知・承認されていない可能性がある。今後は、当番や係活動を通して自分の貢献を実感できるような振り返りの場や、感謝の言葉を伝え合う活動を積極的に取り入れていく。
- 「自分は勉強がよくできる方だと思う」という設問の肯定回答が62.5%で、市の平均を下回っている。学習面での自己肯定感が十分に育っていないことがうかがえる。今後は、できたことに焦点を当てたフィードバックや、小さな達成を可視化する機会を設けることで、「わかった」「できた」と感じられる学びの積み重ねを支援していく。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.9	64.7	64.1
	情報の扱い方に関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	86.7	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	95.0	83.3	83.4
	書くこと	21.7	42.8	48.2
	読むこと	70.0	66.1	65.1
観点	知識・技能	73.3	66.5	65.9
	思考・判断・表現	64.2	64.6	65.5



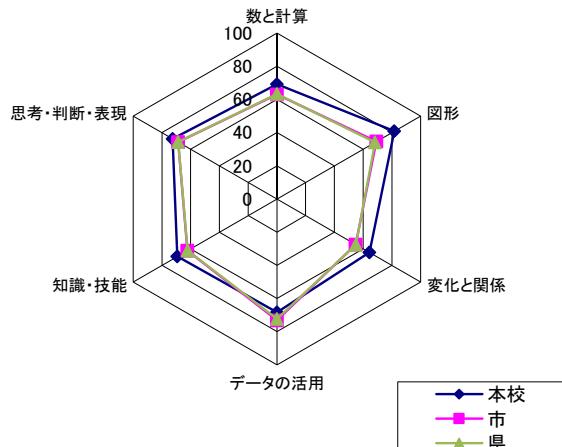
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点	
		○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○漢字の読み書きや、熟語の意味を捉えている。日頃から読書を推進しているためと考えられる。 ●修飾語の理解が不十分である。	・文の中でどのような役割を果たすのかを、言葉遊びやジェスチャーや絵を使った視覚や身体感覚に訴える体験を通して再び復習していく。	
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○ことわざの意味や使い方を理解している。特定のことわざを使って、短い文作りや日記などを書く活動を行った成果と見られる。	・日常会話に取り入れたり、ことわざを例にとり、場面を想像させて短い劇などで発表させるなど具体的な状況設定での練習をしたりして、ことわざを言葉の表現の道具として自分のものにできるよう指導していく。	
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○話した内容の中心を聞き取ることができている。話を聞く態度を継続して指導してきた成果と考えられる。 ○自分の考えを理由を挙げながらまとめることができている。週末の作文課題や学級で話し合う活動を積み重ねてきた成果であると考えられる。	・今後もインタビューや様々な立場での話合い活動をさせるとともに、事例に沿って事実と意見を区別して話す力を育んでいく。 ・伝わりやすい話し方の工夫を確認し、授業においても意識して実践させるようにする。	
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●段落の役割についての理解が不十分であり、指定された2段落構成の文章を書くことに課題がある。 ●時間配分に課題が見られる。	・週末の作文課題を引き続き行い、段落構成を指定し書かせることで、段落の役割を理解させるとともに、事実と意見を区別して書けるように指導していく。	
読むこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができている。これまで、感想の交流を継続して行なってきたためと考えられる。 ●情報と情報の関係について理解し、要約することに課題が見られる。	・キーワードを探し、大切なことを抜き出す活動を行うことで、中心とまとまりの意識付けをする。アウトプットの機会を増やすことで、効果的に要約する力を着実に身に付けていく。	

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.2	63.0	63.3
	図形	81.7	69.2	68.3
	変化と関係	64.4	54.8	55.0
	データの活用	68.3	73.1	72.3
観点	知識・技能	69.3	62.3	62.1
	思考・判断・表現	72.6	68.7	68.7



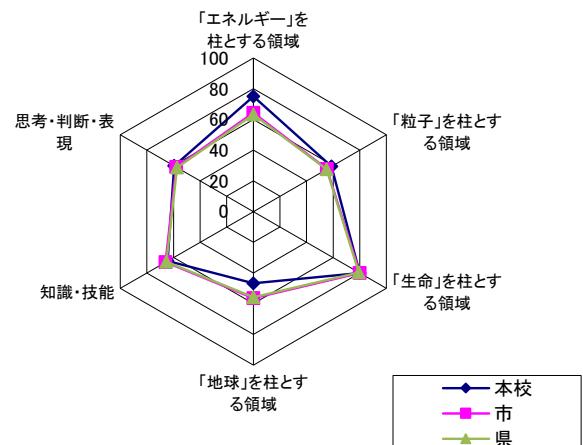
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点	
		○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○帯分数を基にする分数のいくつ分かで大きさを考えることができている。分数の大きさをより具体的にイメージできるよう、具体的な物を分割する活動をしてきた成果と考えられる。 ○少分数の四則計算はよく理解できている。 ●数直線上の目盛を仮分数で表すことが不十分である。 ●2けた÷2けたのあまりのある計算に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリル等を活用し、多様な問題を解くことで、分数や小数の計算のきまりについての理解をさらに深められるようにする。 ・一斉指導だけでなく個別指導も行い一人一人の理解度に合わせた支援をするとともに、グループ活動を取り入れて学び合いの場を増やす。 	
図形	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○立体の構成要素から見分けることができている。実際に立体を作ったり、立体模型を使って理解を深めたりした成果と菅家られる。 ●ものの位置の表し方から、もとに位置を考えることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もデジタル教材を効果的に活用していく。また、立体模型に実際に触れたり、操作したり、作成したりすることで空間認識力の向上を図っていく。 	
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○伴って変わる2つの数量の関係を正しく理解し、式に表すことができている。例題を多く解くことで、問題の解き方が定着したと考えられる。 ●割合を使って求めることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活での具体的な場面で、割合を使った様々な問題に取り組むようにする。 ・定着には個人差があるため、机間指導や必要に応じて個別指導を取り入れるなどして一人一人の理解の定着を図っていく。 	
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○折れ線グラフの特徴を理解し、傾きから変わり方を読み取ることができている。算数に限らず、社会や理科等でも折れ線グラフについての読み取りを行うなど、教科等を横断して学習を進めている成果であると考えられる。 ●グラフから傾向を読み取ることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・折れ線グラフと棒グラフとの複合グラフの読み取りに課題があるので、練習問題や他教科の学習や実生活に関する二次元の表やグラフを使用することで理解が深まるようになる。 	

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	75.0	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	58.7	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	80.0	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	46.7	56.4	55.8
観点	知識・技能	64.4	66.0	65.3
	思考・判断・表現	59.5	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○回路に流れる電流の強さや回路の乾電池のつなぎ方などについてできている。実際に一人ずつ自分たちで回路を作り、体験を通して学んだ成果を考えられる。	・実験を行う上で、器具の名称や使い方を丁寧に確認することで理解を深められるようする。 ・電流の流れなど目視しにくいものは、図解などで電気の流れをイメージしやすくしたり、電流計などを使い数値で確認したりすることで、変化について考えやすくなる。 ・今後も体験を通した指導を取り入れていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○空気や水の性質の違いについて、実験前に予想を立て、実験後に結果を比較しながら話し合う活動を積み重ねてきたことで、事実と意見を区別して考察する力が高まり、的確に説明できていた。 ●温度による水の変化について課題が見られる。	・実験によって導き出される結果から、どのようなことが言えるか考察を自分でしっかりと考え、話し合うことで、見方や考え方を広められるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○季節ごとの動植物の様子やヒョウタンの成長の様子について、実際にヒョウタンを育てたり、季節ごとに校庭の植物の観察を行ったりしてきたことが確実な理解につながったと考えられる。 ●骨のはたらきについて課題が見られる。	・骨がなかったときにどうなるのかを想像できるよう、骨格標本や模型を使って説明したり、自分の体に直接触れたり、動かしたりすることで、興味・関心を高められるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●グラフから天気の変化を読み取ることに課題が見られる。 ●水の流れと地面の傾き、水の変化について課題が見られる。 ●星の色や並び方、動き方について課題が見られる。	・水のコース作りをし、試行錯誤するような問い合わせ、地面の傾きと水の速さの関係を身体を動かしながら学ぶ取り組みを行う。 ・季節の星座の形をただ覚えるだけでなく、オリジナルの星座を作り星の並び方に興味をもつききっかけを作ったり、星の動きを体験したりする活動を取り入れる。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

- 「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童は93.3%、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」と回答した児童は93.4%であった。一人一人が活躍できる場や帰りの会で友達を称賛する場を設けている成果と言える。これからも教師から積極的に声を掛けたり、児童同士で褒め合える場を設定したりし、自己肯定感を高めていきたい。
- 「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」と回答した児童の割合は80%であった。学校や家庭において、一人一台端末を活用した学習を進めている成果が表れている。今後とも情報技術の利用において、自ら正しく判断し、責任をもって行動する力の育成など、デジタルシティズンシップ教育を進めていく。
- 「クラスは発言しやすい雰囲気である」と回答した児童は100%であった。一人一人の個性や性格を生かせる環境づくりをし、互いを認め合う活動を多く取り入れてきた成果と考えられる。
- 「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」という設問の肯定回答が市の平均を下回っている。授業の中で振り返りを書く時間は設けているが、それを互いに伝えたり、今日分かったことを発表させたりといった活動を行うことが不十分であったため、授業の中に取り入れていく。

宇都宮市立上河内西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	今年度も、年度初めの懇談会で、家庭教育の重要性を話し、家庭学習強化週間を年2回実施することの協力を依頼している。	家庭学習については、4・5年生ともに8割の児童が学年でめやすとしている時間よりも長く実施できている。また、「自分で計画立てて取り組んでいるか」については、肯定回答が県よりも高い。家庭での学習習慣が定着してきているので、さらに学びを自分のものとして捉えられるような学習方法を身に付けさせていく。
児童の自己調勢力を高めるための授業改善	児童が「見通し・学習・振り返り」の学びのサイクルを回し、自ら学びに向かうことができるよう、児童にとって「わかる」「おもしろい」と感じる授業を展開するとともに、児童のメタ認知を促す自己評価と学びを価値付ける声掛けを行っている。	勉強に対して、「おもしろい、楽しい」と感じている児童は、8割以上と、県を上回っている。一方で、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の設問では、4年生では県より上回っているが、5年生では下回っている。このことから、児童は学習に対して前向きな気持ちをもつ一方で、学習の振り返りを通して次の学習へつなげる力には課題があることが分かる。今後は、学校全体で授業の終末に学習を振り返る時間を充実させ、振り返りを共有・活用する仕組みを取り入れることで、主体的に学びを深める姿勢を育していく。
授業における話合い活動の充実	授業の中に意識的に話合いの場を設け、互いの考えを伝え合うだけにとどまらず、友達の意見と自分の意見を比べて聞いて、考えを深めたり修正したりして練り合いながら話合いが行えるよう指導している。	「グループなどの話合いに自分から進んで参加している」と回答している児童は5年生で9割なのにに対し、4年生では7割であった。一方で「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりしている」については4・5年生ともに県の平均を上回っている。このことから、学年によって話合いへの積極性に差はあるものの、友達との対話を通して自分の考えを広げたり深めたりする経験が日常的に行われており、対話の有用性を実感している児童が多いことが分かる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「書くこと」の領域で市平均を下回った。4年では文章量や構成、考えの明確さ、理由の提示のいずれも低く、5年では段落構成の理解や2段落構成の記述に課題が見られた。	段落構成や文章構成の型を意識した表現指導を全年で系統的に行い、理由や根拠を明確にして考えを書く力を育てる。	作文指導や振り返り活動の際に段落の役割を明確に指導する。例文や構成メモを活用し、事実と意見の区別や、理由・根拠を示して考えを書く練習を継続して行う。週末の作文課題や意見文の作成を通して記述の力を高めていく。